

農業



令和4年2月号
会誌 No. 1686

目次

巻頭言

鳥獣害対策の目指すべき方向……………小栗 邦夫 3

論壇

(有) トップリバー社長・嶋崎秀樹氏の御逝去を悼む……………納口るり子 4

農業懇話会

露地野菜のリレー出荷の課題と生育予測の意義……………佐藤 文生 6

表彰農家訪問

高品質レンコンの周年出荷によるブランド確立と……………望月 龍也 22
生産組合による後継者育成
—新潟県長岡市に大規模レンコン専作農家高橋秀信氏を訪ねて—

食を楽しむ

葛粉をとる……………塚谷 裕一 29

研究の最前線

キクの花が咲く仕組みの理解と開花制御技術の開発……………久松 完 30
—キクを知り、キクを操る—

農業・農村の現場から

年間49万人が訪れる農業交流拠点……………下山 伸幸 40
—長崎県大村市の有限会社シュシュの取り組み—

世界の農業は今

フィンランド農業の構造変化と食料安全保障……………内山 智裕 46

私の経営と志

手よりも頭を動かす農業……………當間 大樹 51
—沖縄から直感と直観による考察—

東京農業大学収穫祭から (Ⅱ)

降雨から農地基盤の未来を……………生産環境工学科 地水環境工学研究室 53
グローバルに考える!?
—生物由来の土壌改良・保全について—

農政情報…………… 57

大日本農会だより…………… 58

編集部から…………… 58

会誌「農業」に関するアンケート

表紙写真説明

雪中キャベツの収穫 (長野県小谷村)

長野県小谷村は県内でも有数の豪雪地帯であり、「特別豪雪地帯」に指定されています。11月下旬から4月上旬まで農地は深く雪の下に閉ざされており、農業に適しているとは決して言えない土地です。

そんな中、昔から冬の副業として雪中野菜の生産が始まり、現在では希少品目としてブランド化を行い、冬の小谷村の特産物として販売しています。

キャベツは、夏頃定植を行い、根付いたまま降雪をした状態を2週間保ったキャベツを「雪中キャベツ」といい、出荷の際は除雪をして掘り出す作業が必要となり、その重労働と村内でも60a程度しかないため希少価値が高まっています。

通常のキャベツより甘味が強く、芯に近い中心部ほど甘くなります。普通のキャベツでは捨ててしまう芯も天ぷら等で活用でき、捨てる部分がほとんどないのも特徴です。

出荷は1月から2月下旬となり、小谷村を代表する冬の特産物として県内でも多く販売されています。

(小谷村役場観光地域振興課農林係農政担当：鷺澤 涼)